



八重瀬町まちづくり 地域円卓会議

具志頭に FC 琉球の練習拠点ができる。
どうすれば住民とそのメリットを分かち合えるのかを考える。

実施報告書

日 時： 2021 年 11 月 9 日（火） 18:30-21:10（受付開始 18:00～）
場 所： 八重瀬町中央公民館具志頭分館（沖縄県八重瀬町具志頭 1）
主 催： 八重瀬町
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】八重瀬町まちづくり地域円卓会議



- 日 時：2021年11月9日（火）18:30-21:10
- 場 所：八重瀬町中央公民館具志頭分館
- 着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 来場者数：23名（企業、自営業、行政、教育機関等）
- 主 催：八重瀬町
- 協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO 法人まちなか研究所わくわく
- お問合せ：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

津波古 幸菜（八重瀬町役場 経済建設部 観光商工課 観光商工振興班 主事）

**具志頭にFC琉球の練習拠点ができる。
どうすれば住民とそのメリットを分かち合えるのかを考える。**

八重瀬町具志頭、旧陸上競技場のあった場所にFC琉球の練習拠点も兼ねたサッカー場などが完成予定です。クラブハウス付きのこの施設は、クラブのJ1昇格にも堪える仕様。今回の円卓会議は、この施設並びにFC琉球をどう迎え入れ、連携すれば町民のメリットや地域の活性化につながるのかをサッカー関係者や行政・住民等様々な立場の方々と情報交換し、その方向性を探ります。

「地域円卓会議」は、地域社会において多様な主体が連携することをめざし、テーマ（課題）を共有し、アイデアとネットワークを持ち寄る対話の場です。企業・行政・地域・学識・メディア等、多様な見地を有するメンバーが一同に会し、提示された課題の解決をめざして議論します。

センターメンバー



津波古 幸菜
八重瀬町役場
観光商工課
観光商工振興班
主事



廣崎 圭
FC琉球
代表取締役
副社長



野原 邦男
八重瀬町サッカ
ー協会 理事長



高良 清健
八重瀬町青年会



祖堅 五菜
やえせーによ



新里 司
八重瀬町商工会
事務局長



照屋 成次
琉球アスティー
ダ 執行役員

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 八重瀬町スポーツ観光交流施設
 - ・ 令和4年度(令和4年4月1日)より供用開始予定
 - ・ 場所は八重瀬町の字具志頭1300番地(陸上競技場の跡地)
 - ・ 八重瀬町スポーツ観光交流施設は、サッカーを通じた地域間交流やファンとプロサッカー選手との観光交流を目的としている
 - ・ 観光交流機能、Jリーグ規格を満たす練習拠点機能を有するサッカーグラウンド等を整備する
 - ・ 県内プロサッカーチームのFC琉球が、当該施設を練習拠点とすることで、J1昇格を目指すことを狙っている
 - ・ 施設の概要は、サッカー場(天然芝1面、夜間照明あり)、フットサルコート、クラブハウス(トレーニングジム、会議室、選手ロッカールーム等)、駐車場となる
 - ・ クラブハウスの2階に練習が一番見やすい場所をつくっている
- どのような施設ができるかの情報は、地域では知らない人が多いのでは
- Jリーグ
 - ・ 全国に57クラブある
 - ・ 「地元のJリーグクラブを使って地域の課題を解決しませんか。」と提案している
 - ・ 課題の解決を目指す活動はFC琉球だけではできない。地域の皆さんや自治体、地域の企業の協力が必要
 - ・ 地元の企業さんのネットワークやサポーターの皆さん、選手のSNS上の発信力を持っている
- FC琉球
 - ・ 県内各地でサッカー教室も運営している
- 八重瀬町サッカー協会
 - ・ 1956年に富盛で設立
 - ・ 地域に還元できる人材を育てる、という理念で活動してきた
 - ・ サッカー協会から中学校サッカー部へ、外部コーチとして派遣を行っている
- 南部広域の活動資金で内閣府から予算が出る、という説明を受けた。八重瀬町だけの問題ではないと捉え、糸満市、豊見城市、南城市、南風原町、与那原町、八重瀬町の6市町村のサッカー協会が集まって、色々話し合いをした
- 南部広域のサッカー連盟の設立を調整中。以下3つの取り組みを計画している
 - ・ ①具志頭サッカー場ができた時の「こけら落とし」に合わせて、サッカーフェスティバルイベントの開催、②南部親子フットサルリーグ、③ナイトター設備を使った社会人のナイトリーグ
 - ・ まず少年の大会からはじめ、ノウハウが蓄積してきたら女子、中学校、キッズ、社会人へと展開したい
- やえせーによ(八重瀬町からFC琉球を応援しているサポーターグループ)
 - ・ 東風平サッカー場でFC琉球が練習しているところを見学したりする中で、ポスター配りなどサポート活動をするようになった
 - ・ 横断幕の作成、八重瀬町役場に得点ボードの設置など行い、SNSで発信している
 - ・ 現在、8名で活動している
- 琉球アスティーダ
 - ・ プロの卓球チームだが、沖縄で14店舗の飲食店や整骨院、トレーニングパーソナルジムも運営している。営業のコンサルティングサービスなども行うプロスポーツチーム
 - ・ ほぼ全てのプロスポーツチームの収益構造は、サポーターとスポンサーによるものだが、このサポーターとスポンサーに頼らないビジネスモデルのユーザーBtoC、BtoBのマーケティング会社として2021年3月に日本で初めて上場
 - ・ 未来のプロスポーツビジネスは、地元資本による沖縄に根ざした経営が必要と考え事業に取り組んでいる

評価の提供

- 沖縄子ども達が芝生の上でサッカーを出来る環境が八重瀬町の一つできることは、サッカーの将来としてとてもよい方向性
- Jリーグのサッカーだけではなく、地域との関わりを知ると安心感ある
- プロのスポーツが来ることへの期待がある

- 陸上競技場の跡地にできる施設として、立派なものができる、という期待もある反面、これまで陸上やエイサー、祭りをやっていた場所がなくなることや地域と離れていくのかな、という不安と心配は正直あった
- 商工業者として、この施設ができることへの期待や盛り上がりはまだ感じていない
- 天然芝のサッカー場が2面、フットサル場が一つ、これは県内で見ても八重瀬が初めてではないか。とてもうれしいこと。この地域の財産を活かして、いいサッカー人生を歩んでもらいたい

視点の提供

- 課題の解決を目指す活動は FC 琉球だけではできない。地域の皆さんや自治体、地域の企業の協力が必要
- プロ選手と地域が、近い距離感でつながっていくことが、プロ選手として世間の本当の一般の空気感を知ることになり、選手の将来にすごくつながる
- 八重瀬の課題を話し合うコミュニケーションの場はどんどんつくった方がいい
- 具志頭は、子どもからお年寄りまでいるので、子どもたちのスポーツや青年会のエイサー、高齢者のミニデイサービス、道の駅イベントなどに参加してもらおうと、地域の人にも知ってもらえるのでは
- 八重瀬町サッカー協会としては、サッカー場とフットサル場の使用時間を明確にしてほしい
 - ・ 東風平サッカー場で FC 琉球がきているときに、地元チームや、小学生の大会等が全部はじき出された。芝の管理上ということであったが、なんのために地域につくったのかとなる。そういうことがないように、上手くやっていきたい
 - ・ 月～金は FC 琉球が使うが、土日、夜間は使えると聞いている。土日や夜間を利用しながら、親子のフットサルを行いたい
- 八重瀬町で FC 琉球を迎え入れる
 - ・ 選手が来て、お店に来て、商品を買ってもらうことがサポーターも嬉しい
 - ・ アウェイ戦だと行けない方が多いので、パブリックビューイングを練習場でやりたい
 - ・ 商工会がやっていたスタンプラリーを FC 琉球と絡めてやりたい
 - ・ 八重瀬町内のお店に協力してもらって、FC 琉球のグッズやコラボ商品開発ができるとうれしい
 - ・ バスに乗って試合を見に行くという観戦ツアーをやりたい。町民の交流につながる
- サッカー選手は選手生命が短いと思う。その後の人生は長い。引退後、何かしら地域に関わっていて、八重瀬町で何かができないか
- FC 琉球と地域との、お互い接点づくりを行うことが大切。身近に感じるようなことができればいい
- ヨーロッパでは、サッカーの練習拠点は地域とのつながりがとても多い。地域の飲食店がブースを出している。ちょっとしたフェスティバルが毎週のように行われている。文化としてチームと地域とのつながりが非常に強い。各パーツがバラバラに動くのではなく、連動しながらお互いにシナジーを生む仕組みづくりが、文化として根付くことにつながる
- クラブチームとしては、育成と地域をつなげるところ。トップチームを伸ばしていくっていうところも力を入れながら、ボトムの育成に投資をする。地域のつながりをつくることで、地域の子どもたちが将来的にファンになったり、トップチームに上がるといったことがもっと必要になるのでは
- プロの練習を見ることができると、子どもたちの意識も変わっていく。スポーツが好きになる
- 知ってもらうための活動
 - ・ サッカー教室、子どもたちが選手と写真が撮れる機会など
 - ・ 保育園や幼稚園のバスに乗っての散歩コースにグラウンドを組み込んで、選手と遊ぶことができる
 - ・ パークゴルフで選手が参加し、若い人の利用を促す
- これまで陸上競技場があり、住民の方が夜歩いたり、運動したり、エイサー祭りがある等、そういう場所だった。FC 琉球の練習拠点ができたとしても、普段使いで気軽に行けるような場所がいい
- 八重瀬町の観光として考えると、スポーツの拠点として、サッカーやウォーキング、パークゴルフもできる、というような総合的な拠点になれば、私たちも行きやすいのではないかな。サッカーだけにこだわらない
- 6市町村間で連携をしながら、いろんなカテゴリーの強化をしていく。そこに FC 琉球が乗っかってくれれば鬼に金棒
- 地域の子ども達も目指す場所ができるし、FC 琉球もそこに憧れられるという関係。そのためには、お互いの密なコミュニケーションが必要
- すぐに成果は出ない。今は少しずつみんなで種をまいて、みんなで一緒に成長させていく。地域の皆さんに好かれなくて長くない

- 島尻地区から国立を目指すような選手を育成しようという仕組みを築く。FC 琉球の名前が全国に響き渡るような冠をつけた何か、少年たちが目指すような大会など一つひとつ積み重ねていけば目指せる
- 地域の商工会、地域の経済をどうやって絡ませるか。そこはアイデアが必要
- 「ぐしかみ」ではなく、「ぐしちゃん」という具志頭の読み方・呼び方だけでも興味をそそる
- 料理を作る選手が結構いる。「お野菜を買いに行きました」などを YouTube や自分の SNS で投稿している選手がいる。すごく発信力がある
- 選手が具志頭、八重瀬の街の中で買い物をしたりする姿がどんどん増える。生活者の目線での接点が増えていく
- スタジアムの場外で、「スタジアムグルメ」といって、飲食店が来ているケースがある。キッチンカーなどで広められるといいな
- コロナ禍によって、色々な意見あるが、優先順位付けが必要
- 民間の力が必要。FC 琉球と行政だけ話を詰めていくのではなく、指定管理者制度などを活用するなど、計画の段階から連携を
- 今回は拠点が地域の居場所になり得て、そこにビジネスも生まれる大きなチャンス
- 地域の子どもたちとの交流の中で、しっかりこの地域の競技力を上げていく。そこに FC 琉球も力を発揮できる
- FC 琉球のユースチームで上手になって、プロになって、日本代表になって、本当によければヨーロッパに行けて勝負できるような選手が出てくる。そういう子が必ずこの近くから出てくる

事例の提供

- 福島県の福島ユナイテッド。東日本大震災での農産物の風評被害に対する活動事例。選手が畑や田んぼに出て、農産物を生産し、地域の方と協力してスタジアムやネットで販売している
- 鳥取県での「公園遊び」。保育園や幼稚園の園庭で、子ども達と選手やクラブスタッフ、コーチ陣が年間 150 回から 200 回遊びに出かける。ボールを使わない。30 種類ぐらい鬼ごっこを持っていて、鬼ごっこをさせるという活動
- 琉球アスティーダでは、14 店舗のバルコラボという飲食店を県内で運営している。飲食店に通っていただくことで間接的に琉球アスティーダに還元していただける。さらにそこから飲食店を活用して、スポンサーに対してマーケティングのお手伝いなど、経済的な還元ができる仕組みを構築中。飲食店が利益を上げることでチームの強化やスタッフの待遇改善につながっていく
- ペルーやヨーロッパなどでは、サッカーのプロの練習場でなくても、地域の街クラブの練習場では、大人からおじいちゃんおばあちゃんがそこで孫の試合を見ながら、子どもの試合を見ながら、おしゃべりして、飲食をして活性化している

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 1) この施設が、地域に発生している様々な課題を解決(福祉・教育・保健・農工商等)していく場所として機能する「場」となることを目指し、町内外のお年寄り、子ども、農商工業者、学校といった多様な人たちの参画を求めよう
- 2) 1 の目的を達成するためには、あらゆる地域住民の拠点(居場所)として、気軽に立ち寄り楽しめる場所としての機能をもたせ、まず住民に利用してもらいながら、同時に参画を促していこう
- 3) 2 で実行する仕掛けのアイデアは、行政主導ではなく、早い段階から民間のアイデアを受け入れていく体制づくりが重要。行政は指定管理者だけに任せるのではなく、多様な主体のコーディネートに徹すること

■参加者によるサブセッション

具志頭にFC琉球の練習拠点ができる。

どうすれば住民とそのメリットを分かち合えるのかを考える。

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・ FC 琉球とサッカー協会
→サッカー場の使用について
- ・ 時間、場所のわりふり
→選手のはげんは可能？

(地域の行事などに)

- ・ 県出身選手がそっせんしてやるのでは？
- ・ 桜まつりなど
→グラウンド芝のメンテナンスの問題

②

- ・ FC 琉球 練習拠点 できることによる
- ・ 問題点① 駐車場の規模 (少ない?)
- ・ 新城が近い。影響を受ける。
- ・ 区長の発言力が強い
- ・ 外からの人もウェルカム
- ・ マイナス作用
- ・ 問題点② 町が使えるのか
- ・ 維持管理費
- ・ グラウンドゴルフの使用者とのかねあい
- ・ 地元住民との関わりを持つことが大切
(イベント参加等)
- ・ 定期的なホームタウン活動 (サッカー教室に)

③

- ・ 1 魅力のあるコミュニケーションの運動できるフィールド
- ・ 2 家族やおじい、おばあと一緒に活動できる場
- ・ 3 イチャリバチョーデーが感じられる空間 (選手との交流)

④

- ・ 地域と琉球との連携
- ・ 3年に1度のつな引きあみを一緒子どもとの交流 (サッカースクール)
- ・ スター選手の確立

[課題]

- ・ グラウンドを使える割合
- ・ 南の駅で商品開発

⑤

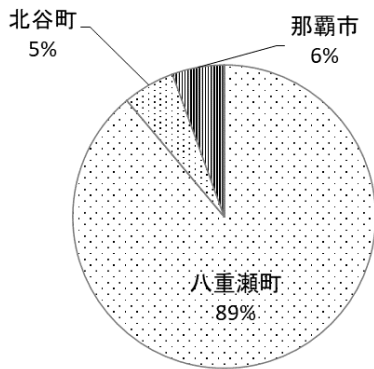
- ・ サッカー協会とFC琉球のつながり
- ・ 地域の子供達のレベルアップ
- ・ 島尻地区の子から沖縄一をめざせる子の強化
- ・ FC琉球の力をかりる!
- ・ アウェイサポを
→やえせ町によぶためには
→みちの駅のおやさいをうりこむ
→SNSで、おきなわ観光の一環
- ・ フットサル、サッカー場不足を地域の子供たち、高、大学生たちが使える環境にしていく。

八重瀬町まちづくり地域円卓会議 参加者アンケート集計

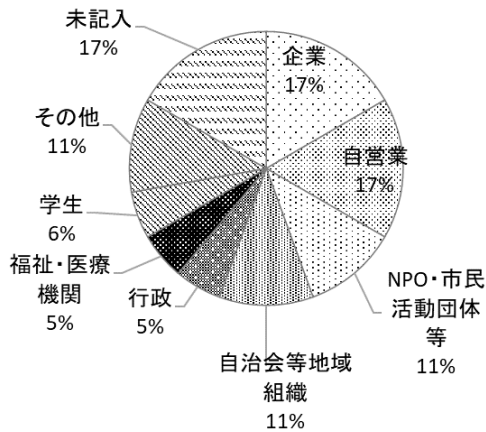
◆概要

- ・日時：2021年11月9日（火）18:30-21:10
- ・場所：八重瀬町中央公民館具志頭分館
- ・着席者：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：23名（アンケート回収18名、回収率78%）

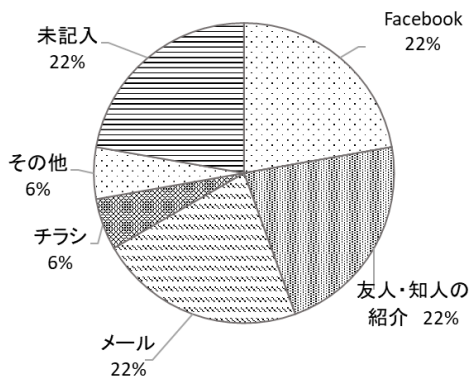
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.4（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
10名	5名	1名	1名	0名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 様々な立場から意見、課題を共有できたため
 - ・ 各センターメンバーの本音がきけて共有できたから（FC琉球 VS サッカ協会）
 - ・ FC琉球がせっかく来るので、地域一体となって盛り上げて欲しい
 - ・ 未来を感じた
 - ・ 色々な立場からの意見が聞けて勉強になりました。この会議をきっかけにみなさんが前向きにFC琉球を利用してwin winになれるといいです。
 - ・ 行政主導ではなく、民・地域の声を反映してもらえそう
 - ・ 自分自身はサポーターの立場で参加して好意的に受け止めていましたが、色々な課題も共有する事が出来て良かったです。
 - ・ 八重瀬町外からの参加でしたが、八重瀬町はじめ、町民の方々がどのように新しいグラウンド活用を考えているのかなどを知ることができ、よかったです。その中で、知られていないことや、使用をめぐる課題についても知ることができ、よかったです。様々な意見を聞くことができ、勉強になりました。
 - ・ いろいろな立場からの話がきけた
 - ・ 地域の様々な方とお話する機会がありがたいと感じました。地域密着、地域愛着とつながっていくように引き続き関わっていきたい。
- ### （4. 概ね満足）
- ・ 様々な課題をないがしろにせず、地域の企業等も一緒にできるといいと思います。

- ・ 多様な意見が知れた
- ・ 行政がこの施設をどのように活用したいのかがわからなかった。ハコだけを作れば良いという思いが強かったし、商工会や協会も、マイナスからのスタートで発言がきつかった
- ・ FC 琉球、町サッカー協会(サッカー経験者、ファン)、地元住民(老若男女)、ビジネス、八重瀬商工会、八重瀬町観光商工課などの調整が必要な構図が見えたのが良かった
- ・ FC 琉球の立場、サッカー協会、地域の苦い過去があったことを知らなかったので、わきまをきいている場合じゃないことも思い知った。

(3. 普通)

- ・ 地域の年齢層をピックアップしてディスカッションしてもいいのでは 経済発展につなげていく方向性

(2. あまり満足していない)

- ・ 更に議論、協議、意見交換が必要かと思う

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 南部の芝生環境の拠点、あこがれとして、この利用をうばうのではなくひろげていく(サポーターの方の意見)。町外からくる方のアクセスをどうするか。レンタル自転車のサービスを設置して、周辺観光と連携してはどうか。
- ・ 民間、行政、Jクラブの連絡協会を作ってほしい
- ・ 商工会はなぜ他人事な発言をするのか
- ・ 課題の共有
- ・ 行政ではなく、プロデュースを指定管理者がまとめる!
- ・ 地域との交流の場を作る事により、サッカーも盛り上がっていくのでは
- ・ FC 琉球が地域とかかわりたいと思っている事
- ・ プロデュース

- ・ 地元住民の日々のスポーツコミュニティスペースとフェスティバル(町内祭り、運動会)が確保され、そこに選手がからむことで、認知度を上げる
- ・ 八重瀬祭りに FC 琉球のブースを設けて、田中恵太選手が考えた料理をだして、各選手が店頭で立って、住民と触れ合う。サッカー以外の人とももっと交流して、サポーターも増やし、八重瀬町に色々還元できれば良いと思います。
- ・ 子どもたちのあこがれの場所や人がサッカーチーム「FC 琉球」となれる様に、Jリーグへのあこがれ、地域で活躍する選手を間近でみれる場所が、八重瀬町であってほしいなと思いました。
- ・ FC 琉球の選手は、料理をつくる方が多いということで、八重瀬町の食材をつかってもらうというアイデアが良いと思いました。八重瀬町は、農業も盛んなので、その連携もできるといいなと思いました。また、島尻地区全体で、サッカーを盛り上げ、子どもたちの競技力を上げていくアイデアも良いと思いました。
- ・ 指定管理の話を知りたいです
- ・ 琉球アスティーダの経営理念 ・地元との関わりに対する Jリーグの考え
- ・ 年1回のサッカーフェス、琉球メニューなど色々アイデアがあって良かったです。

(写真) 会場の様子



と一緒

地域の利用

いっしょに活動

交流の拠点

サッカー協会と
FC琉球

大学生・高生
の利用

とらあうのではなく

あこがれの場
環境づくり

なかり
のほろ

500
の環境

はう環境

梅まつりなど
でもFC琉球との
交流も。

異種村
スポーツの
交流

6市町村との
連携

とらあうFC琉球と
どうできるか

どう調整していくか

場所の活用

サッカー教室
イベントの開催
選手の参加

パークゴルフも
人集まる

皆大人使
できると

散歩
スポーツの拠点

子どもたちが
FC琉球に
あこがれ
めざす。

地域経済と
どうかめるか

保育園
のルートへ

地域課題

地域とつながり
を強化

福祉

子育て

優先順位づけ

民間の力活用
し指定管理者制度

プロセス

特をまいて
いっしょに

スタジアム
グルメ

マッチカー

料理とお酒
選手がふる
ハシ海町のOCCで
買えば→SMS発信

地域の利用へビジネス

選手も買物・飲食
あこがれるサポーターも
家

子どもたち

あこがれの場 → 目指す
八重島の選手もいる

文化をつくる
とてよききっかけ

地域
つなぐ
スポーツ
産業

シカレン
フェスティバル
具体案

行政

いっしょになって
とりかていきたい

調整役 民間主導で

つなぐ

✕ 拠点ができ
何らかの課題解決

✕ いっしょな課題への接点を
もって共有を

✕ 居場所・商農
うまくかえる関係

✕ 参画の多様化 (こども・おじいちゃん
商農...)

✕ 役割分担い。プロセスする役

5

- FC琉球とサッカー協会
- サッカー場の使用に力を入れる
時間、場所の確保
- 選手の活躍は可能?
(地域への貢献を)
自身選手が居るから
やるのは?
- 桜まわりなど
- グラウンド芝メンテの問題
-

- FC琉球 練習施設で芝を刈る
- 問題点① 駐車場の規模(ツカ?)
- 新築が近い、影響を受ける
区長の発言力が強い。
- 外からの人もウエルカム
イベント作用
- 観光の干渉

- 問題点② 何々々々々
管理費
グラウンドの使用者の
地元住民との関わりを持つことが
大切(イベント参加等)
定期的なホームラン活動(サッカー)

地域と琉球との連携

- ・ 3年に1度のつば引きあみを一緒に
子どもとの交流(サッカースクール)
- ・ スタ-選手の確立
- [課題]
- グラウンドを使える割合
- ・ 南の駅で商品開発

- ・ サッカー協会とFC琉球のつながり
- ・ 地域の子供達のレベルアップをはかる
↓
- ・ 島原地区の子から沖縄まで
めざす子の育成
- ・ FC琉球の力をかりる!
- ・ アウェイサポーター
や地元におくためには
おちの町の応援を呼びこ
SNSで応援の視覚の一端
- ・ スタ-のサッカー場不足を
地域の子供たち
南、大学生たちが、使える環境
にしたい。

- ① 魅力のあるコミュニティ
の運動できるフィールド
- ② 家族やおじい、おばあ
と一緒に活動できる場。
- ③ イチセリバキューターが
感じられる空間。(遊戯)